# 震災支援委員会二 No.3

・被災教会の要望に応える形でボラン 被災教区 すが、ボランティア登録を引き続きお願いいたします。 ィア派遣を行っています。前回ニュースでもお伝えし 今回のニュースは現地で活動して下さった方の声をお伝えいたします。

大船渡市街地の被災状況(四月七日)

牧師の牧会活動の補助

活動期間 ■二〇一一年四月五日(火)~十三日(水) 活動内容■・被災者への物資の配布および物資の要請 大船渡教会(岩手県大船渡市)

派遣先■

奥羽教区

被派遣者 ■ 伊藤大道

(興部伝道所)

出発前

呼びかけの案内があり、その中でボラ どを用意して、四月四日車で出発する。 えられる。ただし、現時点では派遣先 教区幹事より大船渡教会への派遣が伝 からないため、水、食料、ガソリンな の状況がどのようになっているのか分 し込みをする。三月三〇日に日向恭司 ンティアの呼びかけがあり、すぐに申 震災後、北海教区より被災地支援の

# 現地到着

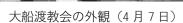
渡に向かう。現地に到着したのが、 船渡教会も、壁にひびが入っている程 の機能は回復している様子だった。大 被害を受けた低地以外は、ある程度街 内は地震による被害は少なく、津波の 月五日の夕方近くだった。 事務所に立ち寄り、教区主事松浦祐介 出発前の想像とは異なり、大船渡市 まず、岩手県盛岡市にある奥羽教区 教区の牧師数名と一緒に大船 四

現地での活動

度で、建物自体はしっかりしていた。

きた支援物資を配布する活動を行って て家を失うなどして避難生活を送って に制限がかけられており、そうした不 いた。行政の支援活動では物資の品数 いる方に、各教会や教区より送られて 大船渡教会では、 地震・津波によっ

> 態が続いていた。私の役割はそうした 足分を少しでも補うための活動だっ れているものを要請することだった。 資送付申し込みへの対応と、必要とさ じめとする各教区・教会からの支援物 物資配布のお手伝いと、北海教区をは 会を訪れ、 物資を持っていくという状 一五〇人近い方々が毎日教



# 牧会活動の補助

四

動を私がお支えすることになった。具 ばらく休養に出ることになった。これ られるが、震災直後に赴任して以来、 は奥羽教区からの意向でもある。その 休みなく対応に追われていたため、 教会は村谷正人牧師が主任としてお して、牧会活動の補助がある。 もうひとつ、私に課せられた役割と 村谷牧師が不在の間、教会の活

大船渡教会の会堂内部(4月7日)

教、支援活動を申し出る様々な団体へ 体的には、祈祷会のお話や、 の対応と受け入れなどだった。 礼拝の説

# 五 街と人々の様子

山となっている。 れて倒壊し、道路のわきにはがれきが の様相は一変する。建物はすべて流さ ているため、津波の被害は受けていな いが、教会から数分歩いただけで、街 大船渡教会は比較的高台に建てられ

他の地域では電気や水道がいまだに使 ることもあり、すでに復旧していたが、 えないという状況だった。 会周辺は、街の主要施設が集まってい ライフラインについては、 大船渡教

には家を失い、家族が亡くなるか、 きと変わらないように見えるが、実際 街の人々も、会う人はみな平静のと

# 活動を振り返って

印象を受けた。

かえってそれが見えにくくなっている による傷口があまりにも大きすぎて、 方不明のままという方ばかりで、震災

地に行って感じたこと。 週間という短い期間だったが、 現

思いを抱えているのは、誰しも同じだ る場合もある。 も、その善意が相手にとって重荷とな 何かしなければという思いが先走り、 何かをしたい、何かしなければという がどんなに善意に満ちたものであって 慮が行きとどかないことがある。それ 被災した教会の痛みや負担に十分な配 と思う。しかし、私たちはどうしても これまでにない大惨事を前にして

良い支援の在り方につながるのではな 築いていくことが、これからの、より れる情報を集め、被災した方々の声に る。そのためにも、被災地から発信さ の支援の内容をよく吟味する必要はあ 支援が相手の負担にならないよう、そ いう立場を超えた、互いの信頼関係を よく耳を傾けなければならない。そし いかなければならない。しかし、その もちろん、支援はこれからも続けて 何よりも支援する側、される側と

伊藤大道(興部伝道所)

流れてきたため玄関が崩壊した教会守 隣の病院に急きょ設置された避難所生 礫」や泥で大変な状態でした。牧師は 二四日(木)に花巻に着き、そこか とでわたしが選ばれました。 をしてくれる若者が来てほしいとのこ だれもいない状態になり、車や大木が 活を続けていて、夜になると教会には 階段一段下まで浸水したために、「瓦 入りしました。教会堂と牧師館の二階 と依頼された原付バイクに乗って釜石 ら七○キロの雪降る中を届けてほしい 牧師の個人的な要請があり、三月

ランティアグループが入ってくる中 安と疲労があったことを思い出しま 初はそれを見ているだけでも相当の不 は周囲もきれいになっていますが、 道行く人に休んでもらいました。 トを張り、薪をくべながら暖をとり ひたすら働きました。教会前にはテン ら活動が始まりました。いろいろなボ 緒に会堂・教会前の片付けを行い、 到着後、牧師の手伝いをすることか 今で

くのボランティアと働きました。一旦、 立。コーディネーターの協力をし、 釜石入りし、 その後、父と弟二人が三月二七日に ボランティアセンター設

> 月十一日(月)より四月十五日(金 弟たちと四月二日に帰宅。二回目は四 に釜石入りしました。

月十三日(金)は、教区派遣として、 三回目の釜石入りをしました。 そして、四月二五日(月)より五 牧師を支えることが教会員を支え、

釜石入りしたいと考えています。 三浦元気(留萌宮園伝道所 牧師の要請に応えるように 泥だしや高圧洗浄の依頼が続いていま ることとなっています。近隣の方から 同じ被災者である近隣の方たちを支え



新生釜石教会のピアノ修復作業の様子(5月1日)

牧師を支えることを中心に

# どうすれば被災者の隣人になれるのか

ぼ千キロです。 下ろすと大急ぎで青森に戻り夜のフェ なってしまいました。大船渡で荷物を 区から運ばれた物資は教会で市民に配 リーで北海道に帰りました。行程はほ 布されましたが、あっという間になく 岡に戻って奥羽教区に集められた救援 を手伝ってくれました。八戸の埠頭が 地の要望に合わせ、道内産野菜と日用 リーで向かいました。トラックには現 がなく、札幌でトラックを借りてフェ ました。恥ずかしいほど、ささやかな 物資を大船渡まで運びました。北海教 会と大船渡教会に物資を届け、再び盛 まで南下し一泊、二二日に新生釜石数 に到着。ここから東北自動車道で盛岡 津波で破壊されたためフェリーは青森 会員が集まり野菜の小分けと積み込み 雑貨を積み込みました。出発前日、教 奉仕です。本州で車を借りるつもりで 教会を訪ね、ささやかな運搬奉仕をし 日本大震災の被災地、釜石、大船渡の 四月二一日から二三日にかけて、東 たが、どのレンタカー会社にも空き

痛々しい新生釜石教会ではバッハのマ していました。導入部の合唱にある「見 タイ受難曲のレコードを流して礼拝を 受難節ということで、津波被害も

> 歌詞は胸に迫りました。震災から一カ がんばろう」という文字が底知れずむ 化し、あちこちで見かける「がんばれ、 がれきの山のままで、ちぎれた電線が 月以上もたつのに、繁華街は文字通り なしく感じられます。 海沿いの集落という集落はみな更地と のようにひっくり返されていました。 道路に垂れ下がり、自動車がおもちゃ よ…何を? 見よ…どこを?」という

感じました の隣人になれるのか、問われていると 教会は何ができ、どうすれば被災者

一條英俊(札幌北光教会)



新生釜石教会の主日礼拝の様子(5 月 1 日)

と下着、インスタント食品は特に人気 空になったダンボールを解体し、まと 生さんとその先生、また、韓国からの があったように思います。 出して並べたり、小さい子供が来たら めておく仕事です。その他に、無くなっ を持っていけるようにしてありまし てあって、来た人がそこから必要な物 ばれてきた支援物資が長椅子にならべ 来ていました。二階の礼拝堂には、 たくさんの若い人達がボランティアで お菓子をあげたりもしました。オムツ たものがあれば新しくダンボールから た。私がしたのは、物資を取り出して

私は今まで、今回の震災のような事態 場所や人々は、本当はまだ、震災の前 ず「被災地」「被災者」と呼んでいた の場所や人々であるということです。 通して私が感じたのは、私が何も考え 今回、大船渡教会で過ごした時間を

# 他人事としないために考えていきたい

渡教会での作業を手伝うことができま の中に運び始めました。 物資をバケツリレーのようにして教会 と、すぐに建物の中から人が出てきて した。私たちが物資を積んで到着する 父が盛岡までもう一往復している 私はほんの少しだけですが、大船

大船渡教会には、酪農学園大学の学

りに考えていきたいと思いました。 ずに、今本当に必要なことを、自分な ければならなくなった人々は、 行って感じたこと、考えたことを忘れ まだからです。今回自分がその現場に それではいつまでたっても他人事のす 私は、もう被災地や被災者の方々を「か 持っていくし、ダンボールを解体して 込んでいました。ですが、教会に来た にくれ、泣いているだけなのだと思い と考えるのはやめようと思いました。 わいそうな場所」「かわいそうな人々」 れる人もいました。そんな方々を見て、 いる私に「お疲れ様」と声をかけてく 人達は、自分に必要なものを自分で に直面し、例えば避難所で生活をしな



(5月3日) 仙台市 荒浜地区にて

條のばら(北星女子中学三年生